

地域資産調査票

資産の名称：「久所の泉」

2012.7.12 宮原諄二（小田原市 久所自治会 会長）

【目的】

本資料作成の目的は、当自治会地域以外にはほとんど知られることがなく、また近い将来に消滅する恐れのある自然的資産「久所の泉」に関し、第1に「久所の泉」を公的に認知し広く市民が共有し、貴重な自然的資産として保全し後世に伝えるようにすること、第2に少子高齢化等で衰退しつつある当該地域活動の活性化の中心として「久所の泉」を位置づけたいことにある。

【概要】

箱根山の東側の山麓に、現在は小田原市フラワーセンターや県立おだわら諏訪ノ原公園が設置されている台地状の諏訪ノ原がある。この地は縄文時代の初期から古墳時代までの1万年以上にわたって原始古代の人々が居住していた場所であり、縄文時代の遺跡や遺物、古墳などが多数発見されている。小田原でもっとも古い時期に開けた地域と見てよいであろう。その後2200年前に酒匂川沿いの平地に稲作集落である中里遺跡にみられるような弥生文化が開け、歴史時代が始まり、今日に至っている。

この諏訪ノ原台地の北麓に、現在の久所自治会に含まれる「久所沢」と呼ばれる小さな谷間がある。その谷間の奥まった崖の麓からは水が湧き出して泉となっている。この泉は特別な名前はないが、「久所の泉」と仮称したい。泉からは何本かのきれいな小川が流れだし、田畑を潤し、住宅地を通り、最後は狩川に合流している。

「久所の泉」の周囲は一部が湿地帯となっていて、湿地帯に特有な植物が生育しており、また毎年時期になると自然発生のホタルが飛び交い、近隣の人たちが鑑賞に来る秘密の場所でもある。現在もなおホタルは近くの家々の庭にまで100m以上も飛来してくるほどである。正月には「どんど焼き」が行われ、泉の脇には道祖神も置かれており、地域住民に親しまれている“サンクチュアリ”のような場所でもある。

「久所の泉」のある小さな谷間「久所沢」は大雄山線「相模沼田」駅から歩いて10分強ほどの地にある。長らく市街化調整区域となっていて、そのために駅から近いという好条件にありながら、住宅地に侵食されることなく緑に囲まれ、自然が保たれてきた谷間である。水が湧き出し、ホタルが飛び交う場所は他にも多々あるであろうが、このような場所は極めて貴重であろうと思う。

【まとめ】

「久所の泉」を公認の自然的資産として頂き、その環境の整備と保全活動を自治会として行うことにより地域の活性化を目指したい。

以上